

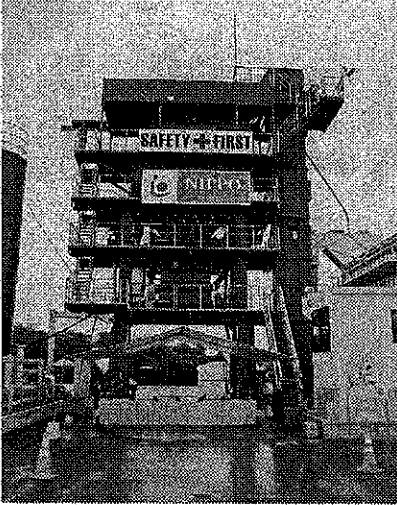
グアムのプラント火入れ

米海兵隊移転工事に対応



NIPPOは、米国グアム州シーゴ村の同社工事事務所内にアスファルトプラントを建設し、今月2日に火入れ式を行った。プラントは1時間当たり150トンの製造能力を持つ中規模クラス。設備投資額は約1億7000万円。州政府工事も今後計画されている米軍海兵隊の移転工事などに出荷する見通しで、同社では工事も含めグアム島内で年間20億〜30億円を受注を目指す。

同社がグアム島で事業を開始したのは州政府発注の国道工事(ルート1)を受注した00年から。その後米州政府や米軍基地関係の工事を中心に継続的に受注。前期の受注額は約7億円という。現地事務所は現在、日本人スタッフ7人と、現地スタッフ35人を抱えている。アスファルトプラントの設置は、グアム島内に米国系企業が保有するプラントが1カ所しかないこと、州政府工事などが継続的に受注できていること、今後米軍海兵隊の移転工事が発注されることなどを踏まえ、アスファルト需要が増えること判断し、建設に踏み切った。同社が常設プラントを海外に設置するのは「マレーシアに以前プラントを持っていたが、久しぶりだ」(同社海外支店)という。



1時間当たり150トンの製造能力を持つアスファルトプラント



火入れのボタンを押す林田会長

現地で行われた火入れ式には、同社から林田紀久男会長、佐藤博樹専務、南條章海外支店長、中川誠グアム工事事務所長、来賓として木村善行日本領事館総領事、グアム公共事業局のガルシア副局長、シーゴ村のエリサマ村長、グアム建設業協会、マルチネス会長ら関係者約90人が出席した。近

く州政府から受注した国道4号(ルート4)工事に初出荷が行われる予定。

グアム合材工場完成

NIPPOは米海兵隊の基地移転をにらみ、米・グアム島にアスファルト合材工場を整備した。同社は2000年にグアムに進出し、州政府や既存の米軍基地関連の工事を主体に展開してきた。島内には米資本の合材工場が1つしかないことなどが

米海兵隊基地移転に備え

NIPPO

ら、自社のプラントを保有し、合材供給と施工を一体で取り組める体制を整える。工事・製品合わせて年間20〜30億円の安定的な受注を目指す。

グアム島ジゴ村にあるグアム工務事務所内の敷地に、製造能力毎時150tの中規模プラ

ントを建設した。投資額は約1億7000万円。同社が常設の合材工場を海外に保有するのは約20年ぶりになる。

州政府発注のルート1の工事受注をきっかけに00年に進出し、数年前に常設の工務事務所を設けた。日本人7人のほか、現地スタッフ約35人で運営する。前期は約7億円の工事を受注し

た。舗装に使う建設機械も一式保有している。島内には舗装会社が少ないことから「施工と合材販売を一体的に受注していく」（山田恭一 舗装事業本部海外支店海外工務第1部海外総務グループ課長）方針だ。現地では2日に開いた火

入れ式には、林田紀久男会長ら総勢90人が参加した。ルート4工事を受注し、近日中に合材の出荷を始める予定だ。NIPPOはことし4月に海外支店を新設し、海外事業を強化した。現状はグアムのほか、タジキスタンで2件のODA（政府開発援助）工事を施工している。海外事業はグアム、ODA、日系企業関連、東南アジアを主体とする遮熱塗料の販売の4つを柱に展開する。



製造能力毎時150tの中規模プラントを建設

海兵隊移転など対応

グアムアスファルト火入れ

NIPPO

NIPPOは、グアムに常設のアスファルトプラントを完成し、今月2日に州政府、日系企業関係者、現地企業関係者ら総勢90人が出席して火入れ式を行った。

海外で常設のアスファルトプラントを建設するのは20年ぶり。総額1億7000万円を投入した。製造能力は1時間150ト。島内に米企業1社のプラントがあるだけ。同社は00年に初進出、材料供給を加えた強みを生かし、主に州政府関連の公共工事のほか、海兵

隊移転に伴う工事受注を度の仕事・材料販売の獲得を目指す。年間20〜30億円程



完成したプラント

建設産業新聞
平成22年7月16日掲載